

義農公園、どう変わる？ 皆さんの「気になる！」にお答えします：)

新しい義農公園について、アンケートやワークショップなどで寄せられたご意見・ご質問にお答えします。

義農公園が目指すのは「つくって終わり」の公園ではなく、皆さんと一緒に作り、
使いながら育てていくため、次の「5つのヒント」を公園づくりのコンセプトにしています。

WS#4成果 義農公園を育てる 5つのヒント

① 松前っ子が育つ

こどもの遊びは、成長のための大切な時間です。義農公園は、こどもの「できた」をおとなが見守り、ときに声をかけながら、ともに学び、挑戦を支える場所でありたいと考えます。自由でありつつ、周囲にも配慮する「責任ある自由」を、みんなで支えていく公園を目指します。

② ゆっくり過ごす人も、 体を動かす人もゆるく共存

散歩を楽しむ人がいる一方で、思いきり体を動かす人がいる時間もあります。使う時間や場所をゆずり合いながら、それぞれのペースで体を動かせる公園でありたいと考えます。自然なすみわけ、思いやりで共存できる使い方を目指します。

③ いつもの居場所を育てる

義農公園は、ただただいられる、ふだんの暮らしの延長の「いつもの居場所」でありたいと考えます。使い方を決めすぎず、人それぞれの関わり方を受けとめる“余白”を残すことで、多様な過ごし方を育てていける公園を目指します。

④ あつまる・にぎわう、 松前のシンボル

人が集い、顔を合わせ、声を交わす時間は、楽しさだけでなく、地域のつながりを育てていきます。そうした関係性は、いざという時に助け合える力にもなります。義農公園が、人の流れと記憶が重なり合う松前の「シンボル」として育っていくことを目指します。

⑤ 義農精神と松前らしさを つなぐ・ひろめる

義農精神に込められた「利他」の心や、義農神社、桜や松のある風景。義農公園には、松前ならではの文化と物語があります。それらを学びながら残し、今の時代に合ったかたちで、新しい物語へとつながっていく場所を目指します。

Q1. みんなの意見、本当に入っているの？

A1. はい、しっかり入っています！アンケートやワークショップで出た「公園でやってみたいこと」を中心とした意見を「義農公園を育てる5つのヒント」にまとめました。これからの設計や社会実験でも、この5つを大切にしていきたいと思います。

Q2. 子どもの遊ぶ場所、少くない？

① 松前っ子が育つ

A2. 公園全体が遊び場です！遊具だけでなく、タコのすべり台、芝生広場、ボール遊びができる場所などで、走る、登る、挑戦する、友達と遊ぶといった、いろいろな体験ができます。子どもの「できた！」を大人が見守り、挑戦を応援できる公園を目指します。

① 松前っ子が育つ

Q3. どんな遊具ができるの？

⑤ 義農精神と松前らしさをつなぐ・ひろめる

A3. 大きなアスレチック遊具がある松前公園とは役割を分け、義農公園では、小さなアスレチック要素のある遊具を検討しています。さらに、「タコのすべり台」の復活や、「はんぎり競漕」をモチーフにしたオリジナル遊具など、義農公園の記憶と松前らしさを感じられる遊び場を目指します。

① 松前っ子が育つ

Q4. 小さい子も安心して遊べる？

② ゆっくり過ごす人も、体を動かす人もゆるく共存

A4. 芝生広場をひょうたんのようにゆるく区切り、一方は幼児、もう一方は小学生が遊ぶ場所として使うことも考えています。フェンスなどできっちり分けるのではなく、お互いの様子を感じながら、それぞれのペースで遊べる「ゆるい共存」を目指します。

① 松前っ子が育つ

Q5. ボール遊びはできる？

② ゆっくり過ごす人も、体を動かす人もゆるく共存

A5. できるようにしていきたいと考えています！現在、町が管理する公園ではボール遊びを禁止していますが、皆さんから寄せられた声を受け、義農公園にはスポーツウォールや防球ネットを設ける予定です。キャッチボールなどの簡単なボール遊びであれば、芝生広場を使うことも考えられます。遊ぶ人も、ゆっくり過ごす人も気持ちよく使えるよう、利用ルールもみんなで考え、育てていくことが大切です。

① 松前っ子が育つ

Q6. スポーツ広場は、バスケ専用？

② ゆっくり過ごす人も、体を動かす人もゆるく共存

A6. バスケだけではありません！スポーツウォールを使った壁当てでは、サッカーやテニスなど、いろいろな運動ができる場所を目指します。何ができるかを最初から決めすぎず、実際に試しながら、安全で楽しい使い方を考えていきます。

② ゆっくり過ごす人も、体を動かす人もゆるく共存

Q7. ゆっくり過ごせる場所もあるの？

③ いつもの居場所を育てる

A7. もちろんです！芝生でのんびりしたり、木陰で休んだり、散歩をしたり。特別な目的がなくても、ふらっと立ち寄って過ごせる公園を目指します。元気に遊ぶ人と、静かに過ごす人が、場所や時間をゆずり合いながら自然に共存できるようにします。

② ゆっくり過ごす人も、体を動かす人もゆるく共存

Q8. 駐車場は足りるの？

③ いつもの居場所を育てる

A8. 普段使いとして、車いす使用者用を含む 10 台分を計画しています。イベント時には、スポーツ広場を臨時駐車場として使うことも想定しています。駐車場を大きくしすぎると、遊びや緑のスペースが減ってしまいます。歩いて来られる人は歩く、必要な人は車を使うなど、公園や周辺エリアの駐車場も含めて考えていきます。

③ いつもの居場所を育てる

Q9. なぜ大屋根が必要なの？

④ あつまる・にぎわう、松前のシンボル

A9. 雨の日や暑い日にも、休んだり、子どもを見守ったり、人と集まったりできる場所をつくるためです。イベント（例えば義農祭）の舞台や、何も無い日の居場所としても使えます。決まった使い方だけでなく、皆さんのアイデアで新しい使い方が生まれる大屋根を目指します。

① 松前っ子が育つ

③ いつもの居場所を育てる

Q10. 交流・体験学習棟では何ができるの？

④ あつまる・にぎわう、松前のシンボル

A10. 人と交流するだけでなく、公園で「やってみたい！」を実践し、学べる施設です。体験学習室やチャレンジキッチンを設け、料理、ものづくり、地域活動、学習、イベントなど、さまざまな体験につながる場所を目指します。

Q11.チャレンジキッチンって、どんな場所？

④あつまる・にぎわう、松前のシンボル

A11.料理やお菓子づくりなどが得意な人が、本格的にお店を始める前に、販売や運営をお試しできる場所です。災害発生後には、チャレンジキッチンを活用し、炊き出しの拠点として使うことも想定しています。

③いつもの居場所を育てる

Q12.公園は誰が運営するの？

④あつまる・にぎわう、松前のシンボル

A12.町だけでなく、民間の事業者や地域の皆さんと一緒に運営する方法を考えていきます。清掃、見守り、イベントなど、できる人ができる形で関われる公園が理想です。社会実験を重ねながら、みんなが関われる仕組みやルールを少しずつ育てていきます。

Q13.「社会実験」って何をするの？ → 5つのヒントすべてにつながります

A13.社会実験とは、公園の新しい使い方やルールを、実際に試しながら考える取組です。イベント、ボール遊び、チャレンジキッチン、体験学習などをみんなで試し、「これは楽しい！」「ここは工夫が必要」といった気付きを、公園づくりや完成後の運営に生かします。

Q14.災害のときにも使えるの？

④あつまる・にぎわう、松前のシンボル

A14.はい。ただし、洪水や地震(津波)が起きた直後の避難場所ではありません。災害が落ち着いた後に、給水、仮設トイレ、炊き出しなど、地域の暮らしを支える活動に使える公園を目指します。普段から顔を合わせ、つながいを育てることも、いざというときの助け合いにつながります。

Q15.整備にいくらかかるの？ → 5つのヒントすべてにつながります

A15.設計や工事、社会実験などを合わせて、総額約8億円を見込んでいます。必要なものと費用のバランスを1つずつ確認しながら、計画を進めます。

④あつまる・にぎわう、松前のシンボル

Q16.全部、町のお金でつくるの？

⑤義農精神と松前らしさをつなぐ・ひろめる

A16.いいえ。国の交付金などを活用し、町の負担をできるだけ抑えます。木材利用やスポーツ施設への助成、企業や個人からの寄附、クラウドファンディングなども検討します。

③いつもの居場所を育てる

Q17.完成後、お金がかかり続けない？

④あつまる・にぎわう、松前のシンボル

A17.公園が広くなり、施設も増えるため、維持にかかる費用は増える見込みです。民間事業者のアイデアや地域の皆さんの力も借りながら、無理なく長く続けられる公園運営を考えていきます。

④あつまる・にぎわう、松前のシンボル

Q18.義農神社とは、どうつながるの？

⑤義農精神と松前らしさをつなぐ・ひろめる

A18.これまでと同じように、公園と神社を自然に行き来できる空間を目指します。景観にも気を配り、義農神社とじっくりなじむ公園にしていきます。なお、今回整備するのは公園部分のみです。

Q19.「ぎのる」ってなんですか？ → 5つのヒントすべてにつながります

A19.義農精神を今の暮らしに置き換えて、ワークショップで生まれた新しい言葉です。ごみを一つ拾う、困っている人に声をかけるなど、誰かのためにできるちょっとした行動を、「ぎのる」と呼んでいます。

Q20.私たちも公園づくりに参加できる？ → 5つのヒントすべてにつながります

A20.もちろんです！社会実験やイベント、公園のルールづくり、お掃除など、いろいろな関わり方を考えています。できる人が、できるときに、できることを少しだけ。そんな「ぎのる活動」を広げながら、公園と一緒に育てていきましょう！